

ペルーと香港が自由貿易協定に調印

[FreshPlaza 2024年11月18日](#)

ペルー政府は金曜日、貿易関係を強化するための自由貿易協定(FTA)を香港特別行政区と正式に締結した。調印式ではディナ・ボルアルテ同国大統領と香港のジョン・リー・カーチウ行政長官の主導の下、ペルーのデシル・レオン通商観光大臣と香港のアルジャーノン・ヤウ商務経済発展局長官が署名した。

ボルアルテ大統領は、この合意を香港との関係を強化するためのひとつの節目として強調し、安定した予測可能な貿易ルールに基づいていることを強調した。同大統領はまた、FTAはペルーの包摂的かつ持続可能な成長への取組みを強化するとともに、ペルーの輸出業者に新たな機会を提供することでアジア太平洋地域における地位を高めるための一歩であると指摘した。

2023年のペルーから香港への輸出額は前年比微増の2億6,600万米ドルと報告され、ブルーベリー、ブドウ、魚粉、金属等が主要な輸出品であった。今回の合意は、香港の投資家や起業家に中南米での事業の実施と拡大のための安定した戦略的位置付けの市場を提供し、この輸出額を拡大するものと期待されている。

(最近開港した)チャンカイ港や(拡張工事中の)ホルヘ・チャベス国際空港等の重要なプロジェクトは、国内海上輸送の開かれた規制枠組みとともに、中南米における香港にとって極めて重要な接続拠点としてペルーを位置付けている。FTAは一带一路構想と連携し、世界規模での接続性と統合を強化するものである。

この貿易協定には、国境を越えたサービス貿易に関する規定が含まれており、ペルーの企業が香港に拠点を置かずにサービスを提供できるようになり、デザインやビジネスサービスなどの分野に利益をもたらす。また、金融サービスへのコミットメントや、ペルーの輸出品に対する無制限の無関税輸入の保証も含まれており、農産物等ペルーの非伝統的な輸出品に競争力を与えている。

出典: [andina](#)

韓国 済州島のマンダリン業界は亜熱帯作物で気候問題に適応

[FreshPlaza 2024年11月18日](#)

済州島のマンダリン業界は、栽培方法を混乱させる気候変動由来の課題に取り組んでいる。今年は、気温の上昇と熱帯夜の長期化により、収穫が遅れ、果実の品質に影響が出たため、生産者達は農業技術を適応させざるを得なくなった。

ナムウォン農産物センターのヒョン・ジョンホ氏は、「マンダリンは、夜間の気温が摂氏20度を下回ると黄色く色付く。今年は暑さが長引き、すぐに収穫できるマンダリンの量が減った」と説明する。韓国気象庁は、7月から9月の間に、熱帯夜が前年のほぼ2倍の63回発生し、熱波の日が21.4日あったと報告している。

これを受けて、済州島の当局は規制を改め、サイズと品質基準を調整するとともに、一定の甘さの基準を満たすグリーンマンダリンの販売を許可した。この措置により、収穫量はわずかに増加すると予想され、露地栽培の生産量は2023年の39万8千トンから40万8千トンに増加すると推定される。

こうした調整にもかかわらず、異常な天候は引き続き、果実の小玉化や着色の遅延などの問題を引き起こしている。これらの課題を緩和するため、気候変動適応農業研究所では58種類の亜熱帯作物を導入し、マンゴー、パッションフルーツ、ドラゴンフルーツなど17種類の有望な品種を特定した。ハン・ヒョンヒ研究員は、伝統的作物の栽培面積減少への対応として、新品種の開発と亜熱帯農業技術の拡大の必要性を強調した。

亜熱帯果実への移行には、高価な温室の必要性や、従来のマンダリンの栽培法からの脱却などの課題がある。「生産者は、初期投資の増加と不慣れな農法のため、切り替えを躊躇している」と同研究員は指摘する。

マンダリンは2023年に約13億2千万ドルを生み出し、済州島の総農業収入の55.8%を占めて、島の経済に大きく貢献している。12年目を迎える2024年の済州柑橘類博覧会(11月13~19日)は、マンダリン産業の発展とグローバルな協力の促進を目的としており、博覧会のコ・ビョンギ会長が述べたように、済州島の伝統と(困難からの)復元力におけるマンダリンの役割を強調している。

出典: [The Korea Herald](#)